

科目名	音楽 I		選択必修修	使用教材	MOUSA (教育芸術社)
学年 学級	1 年全クラス	単位数	2	教科 担当	山岸由美子

期 間	授 業 計 画	到達目標
1 学期	<p>楽典・ソルフェージュの基礎</p> <p>歌唱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸法・発声法の基礎 ・発声曲(親しみ易く、声出しに適した曲) ・混声4部合唱(合唱祭の課題曲) ・立川高校 校歌 ・2部合唱 <p>器楽</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ギターの導入・基礎 <p>鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技関連曲等の鑑賞 ・実技発表の鑑賞 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現に必要な知識や技術を身に付け表現に活かすことができる。① ・歌唱では、正しい姿勢・腹式呼吸・美しい響きを得るための発声法を学び豊かに表現することができる。② ・器楽では持てる技能を活かし、曲に相応しい表現をすることができる。② ・鑑賞では知識等をもとに音楽を感受し、曲に対する評価や価値・音楽表現の固有性や共通性について考えることができる。② ・練習から積極的に授業に取り組み最終目標を限定せず表現豊かに発表に臨むことができる。③ ・豊かな音楽性や表現力を探究することができる。③
2 学期	<p>鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミュージカルまたはオペラの鑑賞 ・実技関連曲等の鑑賞 <p>歌唱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本歌曲・イタリア歌曲・混声4部合唱 <p>器楽</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ギターと他の楽器のアンサンブル ・コードの仕組み等の習得 <p>自由発表</p> <ul style="list-style-type: none"> メンバー・曲・パート決め 必要に応じてアレンジ・創作 個人及びグループ練習準備開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現に必要な知識や技術を身に付け表現に活かすことができる。① ・歌唱では、正しい姿勢・腹式呼吸・美しい響きを得るための発声法を学び豊かに表現することができる。② ・器楽では持てる技能を活かし、曲に相応しい表現をすることができる。② ・鑑賞では知識等をもとに音楽を感受し、曲に対する評価や価値・音楽表現の固有性や共通性について考えることができる。② ・練習から積極的に授業に取り組み最終目標を限定せず表現豊かに発表に臨むことができる。③ ・豊かな音楽性や表現力を探究することができる。③
3 学期	<p>自由発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習・仕上げ・発表会(音楽修了演奏会) <p>鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本音楽の特徴 ・ミュージカルと舞台演劇の比較 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現に必要な知識や技術を身に付け表現に活かすことができる。① ・持てる技能を活かし創意工夫しながら、曲に相応しい表現をすることができる。② ・自由発表課題に、積極的に協動的に参加できる。③

科目名	美術 I		選択必修	使用教材	美術 I (光村)
学年 学級	1 学年美術選択者	単位数	2	教科 担当	久保俊太郎・池田真弓

期 間	授 業 計 画	到達目標
1 学期	<p>オリエンテーション</p> <p>①鉛筆デッサン「卓上の静物」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エスキース ・デッサン <p>②シルクスクリーンによるプリント制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチ ・下絵制作 ・カットティングシート作成 ・プリント1回目 ・プリント2回目 	<p>年間を通しての授業進行、課題内容の理解。</p> <p>①・鉛筆の正しい使い方、削り方を理解し、実践する。①③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネリ消しゴムの使い方と表現の工夫。①③ ・静物画において効果的な見せ方や構図を考える。② ・対象をよく観察し、陰影の様子や中の骨格、表面の質感の違いなどを表現する。 <p>②・生活の中で活用する道具にふさわしい、楽しいデザインを考える。②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シルクスクリーンのカットティング技法について理解する。① ・道具類を正しく安全に使用し、版を仕上げる。①③ ・専用の絵具や道具の使い方を理解し、きれいに刷る。①②
2 学期	<p>③油彩画「人物」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチ ・下描き ・彩色 ・講評会 <p>④古典技法「日本画」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチ ・下描き 	<p>③・モチーフや構成を考える。②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・油彩の道具の正しい使い方の理解と習得。① ・効果的な使い方、表現のバリエーションを学び、自身の制作に活かす。①② ・自身の作品の発表、振り返り。他者作品の鑑賞。今後の制作や発想に役立てる。②③ <p>④・モチーフや構成を考える。②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本画の道具の正しい使い方や手順の理解と習得。①
学期	<ul style="list-style-type: none"> ・彩色 ・講評会 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な使い方、表現のバリエーションを学び、自身の制作に活かす。①② ・自身の作品の発表、振り返り。他者作品の鑑賞。今後の制作や発想に役立てる。 ③

科目名	工芸 I		必修修	使用教材	工芸 I (日文)
学年 学級	1 年工芸選択者	単位数	2	教科 担当	池田真弓・久保俊太郎

期 間	授 業 計 画	到達目標
1 学期	オリエンテーション 授業進行について	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な授業進行と内容の理解。 ・完成度の高い作品制作と作品提出期限の厳守。
	<p>①製図 第三角法 軸測投影法 完成予想図 (スケッチ)</p> <p>②<木>による生活用品の制作企画 と設計図の作成 木工、漆、螺鈿作品の制作</p> <p>○木工</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部材の木取り及び切出し ・ダボ及び組継ぎ接合による組立て (成形) ・木地調整 (整形) 	<p>① 図法理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正確で美しい製図の作成。①② ・構想を伝えるための表現の習得。①② <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形態の美しさと用途、強度を兼ね備えたデザインを考える。② ・合理的で有効な材料の使い方を考える。② ・道具、工具類の正しく安全な使い方の理解と習得。①③ ・隙の無い美しい接合と成形。① ・金属ヤスリによる整形と紙ヤスリによる木地調整。①②
2 学期	<p>○漆塗装、螺鈿装飾</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下塗～中塗 ・螺鈿青具の張り付け ・上塗 ・研出し ・磨き <p>③<土>による生活用品の制作企画と 設計図の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粘土による成形～整形 <ul style="list-style-type: none"> ▷乾焼 ▷素焼 ・施釉 <ul style="list-style-type: none"> ▷本焼 <p>④<金属>による生活用品の制作企画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチとデザインの考察 ・型紙作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統工芸 (漆・螺鈿) を知り、技法を理解する。① ・素材の美しさを生かした装飾と技法の習得。①② ・自主的な作業の準備と後片付けの徹底。②③ ・螺鈿を美しく磨き出す。① ・漆面を美しく磨き上げる。① <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実用面に耐える陶作品の用途とデザインを考える。② ・粘土の性質、成形方法の理解と技法の習得。①② ・構想した形状に整形する。① ・自主的な作業の準備と後片付けの徹底。③ <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用途を備えた美しくシンプルなデザインを考える。② ・道具、工具類の正しく安全な使い方の理解と習得。①②
	3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・けがき～切断 ・ヤスリ ・磨き <p>⑤鑑賞</p>